

Key Person

各界のキーパーソンたち——



(有)丸光塗装店 代表取締役

松野 光之

未曾有の不況が続く中、各企業は生き残りをかけてそれぞれの特徴を打ち出すのに躍起であり、松野社長率いる「丸光塗装店」も例外ではない。だが社長は、「当社の技術力は他社さんに決して負けていないと自負しています。しかし、当社が本当に大切にしているのは“人間関係”。それが一番の武器なんですよ」と語る。つまり、たとえ他社と価格面で競合しても、「松野さんに頼む」と言ってもらえるような関係が同社の基盤にあるのだ。最終的に企業経営で大切なのは、人と人との絆——それこそが企業が不況を乗り越える鍵ではないだろうか。

(対談記事は110～111頁に掲載)

「周囲の方から信頼してもらおうことが
会社にとって一番大切なんです」

長野県



有限会社 丸光塗装店

長野県松本市大字笹賀 6919-3
TEL 0263-28-4061 FAX 0263-28-4062

代表取締役 松野 光之

(財団法人 日本少年野球連盟 長野県支部 松本ボーイズ監督)

【松野社長の足跡】

横浜市出身。野球に熱中する学生時代を過ごし、名門・東海大学付属相模高校では4番バッターとして活躍する。学校卒業後は様々な経験を経て塗装業で独立。現在は少年野球の監督も務めている。



大西 まずは、社長のこれまでの歩みからお聞かせ下さい。

松野 私は横浜市出身で、ひたすら野球に打ち込む少年時代を過ごしました。そして名門・東海大学付属相模高校に進学し、甲子園出場を目指して練習に明け暮れる日々を送ったのですが、残念ながらその夢は叶わずじまいで。それでも当時は4番打者を務めていましたし、プロ野球選手をたくさん輩出している東海大学への進学も打診されたので、将来を期待されていたのですよ(笑)。しかし私は違う世界を見るべく新しい道に進むことにしまして、高校卒業後は新潟や静岡で社会人の経験を積みました。その後、妻と結婚して子どももできたことをきっかけに、11年ほど前に松本市へと移り住んでき

たのですよ。緑もゆかりもない土地だったのですが、日本の真ん中に位置するこの場所ならば何をしても動きやすいと考えたのです。

大西 なるほど。現在のお仕事を始められたきっかけとは？

松野 塗装職人だった父の影響が大きいですね。子どものころから現場で遊んでいましたし、もともと細かな作業が好きだったのです。誰一人知り合いがない土地でのスタートは大変でしたが、生来人一倍負けず嫌いな性格ですから、「この世界で一番になりたい」と取り組んできたのですよ。

大西 どういった現場をメインにしておられるのですか。

松野 一般住宅をメインに、工務店のお仕事や公共工事など幅広く手掛けて

います。当社は私を含めて4人という少数精鋭ですから、規模が大きすぎる依頼は他社に回すこともありますね。それでも「是非とも『丸光塗装店』さんをお願いしたい」と言ってもらえる機会が増えてきており、ありがたく思っております。

大西 技術力が高いからこそ、御社には次々と依頼が舞い込むのでしょうか。

松野 確かに当社は技術力を強みにしておりますが、私はそれだけでは駄目だと思っているんです。私がこの仕事において何よりも大切だと考えているのは「人」で、人間関係が築けていればどんな状況も乗り越えていけると信じています。たとえば施工料にしても、人間関係が築けていれば値下げ競争に陥ることはありません。むしろ、多少の金銭が理由で離れてしまうような人間関係は、本物とは言えませんし、心で向き合える関係を作ることを大事にしていますね。

大西 では、スタッフの方に日ごろから伝えておられることは？

松野 「仕事は遊びや片手間にするものではない。人生をかけて一生懸命行うものだ」と言っています。ただ、業務外では何をしようとする自由ですから、メリハリをつけて仕事もプライベートも充実させてほしいといつも話していますね。私自身も仕事を離れたところでは少年野球の監督を務めており、地元



野球と塗装に人生をかけ 情熱的に歩を進める 「人」を愛する経営者

縁故も何もない松本市に移り住み「丸光塗装店」を立ち上げた松野社長。最初は苦労ばかりだったそうだが、現在では一般住宅から公共工事まで幅広い現場から指名されるほどの企業へと成長している。また少年野球チーム「松本ボーイズ」の監督としても力を尽くし、多方面から地域に貢献している社長にお話を伺った。

の子どもたちと触れ合っているんです。
大西 昔取った杵柄を活かしてということですね。何年ほど前から指導を？

松野 8年ほど前からです。それまで全く野球から離れた生活を送っていたのですが、私の血を受け継いだ息子が「野球をやりたい」と言い出しましてね。それで少年野球に参加させたところ、たまたま私のことを知っている方がいらっしやって、監督を頼まれたのです。仕事と同様に知らない土地で大役を引き受けるには勇気が要りましたが、今となっては私に欠かせないライフワークとなっています。これまでは学校に行かずに引きこもっていた子を野球に誘ったところ誰よりも打ち込むようになり、野球の名門校に進学したというケースもあります。それに子どもたちが一生懸命頑張っている姿を見ると、楽しくて仕方がないんですよ(笑)。

大西 チームとしても強くなってきてい

るではありませんか。

松野 はい。お陰様で関東大会に出場できるようになりましたし、テレビの取材を受けることも増えました。目立つことばかりが良いとは思いませんが、強くなったメディアに取り上げられるのは子どもたちの励みになりますし、それが起爆剤となって日々の練習にも力が入

「丸光塗装店」の松野社長は横浜市のご出身で、現在お住まいの松本市とは縁もゆかりもないと聞いて驚きました。それに知らない土地で会社を興すだけでも大変なのに、少年野球の監督も務めて強豪チームへと育て上げられたとのこと。そうやって色々な場で活躍できるのも、人に好かれる誠実で温かみのある方だからだと思います。地域の人から信頼されているのはもちろん、子どもたちにも慕われているご様子でしたよ。本業と少年野球双方ともに、さらなる充実とご発展をお祈りしています。陰ながら応援させていただきますよ！

ています。

大西 その中から未来のスター選手が生まれるかもしれませんし楽しみですね。とは言え、社長は本業との二足のわらじですから大変なことも多いでしょう。

松野 そうですね。平日は営業活動に走り回っていますし、土・日・祝日は子どもたちのために野球の指導を行っていますから、体力的に辛いと感じることもあります。しかし、どちらにしても皆が私のことを信頼してくれているからこそ続けていられることだし、何とかその思いに応えられるように努力を続けていきたいです。

大西 それでは最後になりますが、今後の展望をお願いします。

松野 仕事も野球もまだまだ道半ばですから、これからももっと高みを目指して全力を尽くしていきたいと思います。そのためには体調には気をつけて充実した日々を過ごしていきたいですね。そして私と出会った人たち全員に少しでも良い影響を与えられることができれば、それ以上に幸せなことはありません。

(2009年11月取材)



一意 専心

野球を通して伝えたいこと

▼「丸光塗装店」の松野社長は、土・日・祝日は少年野球チーム「松本ボーイズ」の監督としてグラウンドに立ち、子どもたちとともに汗を流している。学生時代は甲子園出場が夢だったという社長は、「今の時代、目標を見付けられない子どもが増えていきますから、野球を通して子どもたちに夢を持ってもらったり人生の基礎を勉強してほしい。そしてできることなら、逆境に打ち勝てるハートの強さを身に付けてほしい」と自らの指導方針に

ついて語った。自身が高校時代にスラッガーとして活躍し、その経験が今につながっていると感じるからこそ、夢や希望を持つ大切さ、そして諦めずにチャレンジすることを伝えたいのだろう。

▼そんな社長の気持ちや温かい人柄は子どもたちにも伝わっているようで、日ごろ親には言えない相談ごとをする子どもたちも多いほか、過去には学校に行かずに引きこもっていた子が野球の練習だけは来るようになったこともあるそうだ。

「頼ってくれるだけでも幸せですし、子どもたちの笑顔を見るのが生き甲斐なんです」と語る社長の微笑みからは、一生懸命に頑張る子どもたちが好きでたまらないという愛情が感じられる。

▼「子どもたちから『要らない』と言われるまで、何歳まででも頑張りたい」と話す社長。これからは松本市の青少年を心身ともに健やかな成長へと導く存在として、地域に貢献し続けることだろう。